

令和6年2月20日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

第9回 学校関係者評価委員会報告書

令和5年度開催 第9回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 大窪 康介 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成27年8月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第2回委員会 平成28年10月1日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第3回委員会 平成29年7月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第4回委員会 平成31年3月26日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第5回委員会 令和3年7月9日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第6回委員会 令和4年3月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第7回委員会 令和4年12月16日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第8回委員会 令和5年3月30日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第9回委員会 令和6年1月17日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

令和6年1月17日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第9回 学校関係者評価委員会報告書（案）

令和6年1月17日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和4年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者 100%」に向けての状況

- ・第59回理学療法士・作業療法士国家試験が、令和6年2月18日に実施予定である。理学療法学科25名、作業療法士24名が新卒生として受験予定である。科目履修生として、理学療法学科4名、作業療法学科2名も新卒生とともに学習を行っている。各教員の対策のもと、グループ学習を中心に模擬試験で学習の進捗状況を確認しながら、個別対応の必要な学生への対応を行っている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 全国模擬試験との比較について

【学校からの回答】

- ① 理学療法学科に関しては、全国平均より高い成績を残しているが、一方、作業療法学科は全国平均より20点程低い状態となっている。残り1ヶ月が重要な時期となってくるので、少しでも個々の学生の成績が上がるように努力していきたい。

2. 4年間卒業率について

【令和5年度の取り組み】

○4年間卒業率「90%以上」に向けての状況

- ・令和2年度入学生である第28期生の入学数は理学療法学科36名、作業療法学科25名である。これらの内、本校修業年限である4年間で卒業予定者は理学療法学科で25名（卒業率69.4%）、作業療法学科で23名（卒業率92.0%）である。
- ・これら第28期生の中で国家試験に合格した者は理学療法学科37名（合格率86.0%）、作業療法学科25名（合格率71.4%）であった。作業療法学科は運営目標値・文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」共に達成することはできる予定である。

【学校関係者評価委員からの意見】

① 退学理由について

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 入試等で学生を選びきれていないことが大きな要因としてあり、高等学校卒業までの学習の習慣が備わっていないことが原因の一つではないかと考えられる。また、卒業率と国家試験の模試の平均点が反比例しており、一定早い段階で勉学に意欲のない退学者が多く出た理学療法学科が良い成績を残していることにも影響していると思われる。

3. 退学者数および留年者数について

【令和5年度の取り組み】

○退学者数および留年者数「年間の退学者数3名以内・留年者数3名以内」に向けての状況

- ・令和5年度当初の在学学生総数は234名（理学療法学科118名、作業療法学科116名）であった。これらの内、最終集計は、3月末になるが、退学者数は8名（理学療法学科7名、作業療法学科1名：1年生6名、2年生1名、4年生1名）、休学者数は2名（理学療法学科2名：2年生1名、3年生1名）である。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 1年次に多く辞める理由は何かあるのか。
- ② 進路変更した後の行先はどこなのか。

【学校からの回答】

- ① 高校生から続いたコロナが一定影響したのかもしれないが、はっきりとした原因はわからない。
- ② 進路変更先は学生により、千差万別で何か一定の傾向があるわけではない。

4. 入学試験受験者実数について

【令和5年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「100名以上」に向けての状況

- ・次年度の入学予定学生は高知健康科学大学の入学試験となる。定員は土佐リハビリテーションカレッジ80名に対して、高知健康科学大学は70名である。
- ・土佐リハビリテーションカレッジに引続き、受験者実数増加のためにオープンキャンパス開催や進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の多様な広報活動を計画・実行していく。

【学校関係者評価委員からの意見】：

- ・特になし。

5. 就職率について

【令和5年度の取り組み】

○就職率「100%」に向けての状況

- ・両学科の就職率は第1期卒業生以来、26年連続して100%を達成できた。12月現在、就職内定が決定している学生は、理学療法学科25名中22名(88.0%)、作業療法学科24名中22名(91.6%)である。
- ・令和5年度採用の求人数(11月現在)は理学療法学科2,490名(内、県内76名)、作業療法学科2,125名(内、県内65名)である。前年度また過去5年間と比較しても増加が見られている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし。

6. その他の報告事項

・令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行された。学生には、引続き、感染に対する意識を高めながらも、マスクの着用は任意にするなど従来の日常を取り戻しつつある。

臨床実習においては、5類移行前と比較して感染予防に対する要求（ワクチン接種や事前検査など）は少なくはなったが、医療現場という特性上一般的な対応より依然厳しいのが現状である。4年次前期の臨床総合実習の学生配置は、四国以外の施設も一部復帰させ、ほぼ従来通りの実習が行われた。昨年までのような院内での新型コロナウイルス感染症拡大のために実習途中で学内演習に変更するなどの対応に追われることは少なくなった。

・就職説明会・臨床実習指導者会議

本年度も、就職説明会・臨床実習指導者講習会は、オンライン開催とした。医療施設等が対象であるため、感染対策を徹底やオンラインの定着・遠方の施設参加の労力の軽減などメリットも感じている。就職説明会は、対面よりも多くの施設に触れることができ、就職の意思決定に役立っている。今後もメリットを活かしてオンライン開催の継続を検討したい。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・① どのようなPT/OTを育てていきたいか。

【学校からの回答】

- ・① セラピストの多種多様な領域への広がりが将来的に展望されることから、医療のみならず、いろいろな領域にも適応できる人材を育てていきたい。